

青木彰記念講座

ジャーナリズムと メディアの現在

開設区分	自由特設
開設学期	春 ABC、秋 ABC
コーディネーター	亀谷 賢 野上 元

◆ ITF・筑波大学からジャーナリズムとメディアの現在と未来を考える

- ジャーナリズムやメディア業界で活躍中の OB / OG が講師陣として週替わりで登壇
- 多彩な業界・業務に就く講師から学ぶことにより、最新のジャーナリズム・メディア業界の動向やメディア・リテラシーを幅広く多面的に学ぶ
- 講師陣は先輩でもあり、大学生活とキャリア形成を結びつけるための参考になる

◆ 青木彰記念講座の開設経緯

かつて筑波大学に「青木塾」という集いの場があった。1978年、産経新聞 取締役編集局長～タ刊フジ社長を歴任した青木彰氏が、筑波大学現代語・現代文化学系教授として着任。その前歴を知ったマスコミ志望の学生たちが、就職相談に押しかけたのが始まりで、青木氏は週に一度、彼らを自宅に招き、時事問題を論じたり、作文の講評をするなどして就職試験に備えると同時に、後半は「酒盛り」を通じ、記者時代のエピソードや自身が体験した戦後史のさまざまな事件の裏話などを語り、社会に巣立つ直前の学生たちに相互啓発の場を作っていた。いつからか学生たちは、その集いを「青木塾」と呼んだ。青木塾は1990年に青木氏が定年退官するまでの12年間続き、延べ200名を超える学生を輩出し、マスコミを中心に現在さまざまな分野で活躍している。

卒業生たちは、20年以上を経た現在も、自主的な自己研磨の場として、業種、業界を越えて交流を続けている。

◆ 開設目的・趣旨

「青木彰記念講座 ジャーナリズムとメディアの現在Ⅰ、Ⅱ」は、ジャーナリスト、広くメディアのご意見番、教育者であった青木氏の志を受け継ぎ、青木塾出身者を中心とした筑波大学OB/OGが週替わりで登壇し、激しく移り変わる社会環境の中で、ジャーナリズムやメディアがおかれている現状について、それぞれの分野での最新のトピックを取り上げながら、理解を深めていく。同時に、近年急速に多様化し変貌するメディア環境の中さまざまな「情報」を的確に取捨選択し、判断し、活用していく能力、また自ら発信していく能力を高める。つまり「メディア・リテラシーを磨く」ことを主眼とする。

◆ 授業の概要

● 春学期

Iでは、広く“メディア”と称される機能とツールに関して多面性を理解し、その上で、特に“ジャーナリズム”の役割に関して理解を深める。

また、多メディア化の中で変化を求められている現代の“マスメディア”の課題を検証していく。

● 秋学期

IIでは、現代社会の中で必須の能力と言われる“メディアリテラシー”を磨くことに主眼を置き、“伝える能力”や“発信する能力”を高める。

また、従来のマスメディアとWEBメディアやSNSなどのメディアが相互にその利点を活用し、成果を上げている事例を考察し、次世代のメディアの在り方を展望する。

本学では、この科目のほかに、メディアやジャーナリズムに関する科目を次のように開設しています。ジャーナリズムに興味のある方は、是非、受講してみてください。

比較文化学類	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ、情報文化概論Ⅰ・Ⅱ、メディア・コミュニケーション論、コミュニケーション論
社会学類	ジャーナリズム特別演習、メディアと情報化の社会学
知識情報・図書館学類	メディア社会学

* 授業概要等詳細は、開設授業科目一覧をご覧ください。

◆ 関連科目の紹介

ジャーナリズム／メディア業界で働くための技術や知識の習得

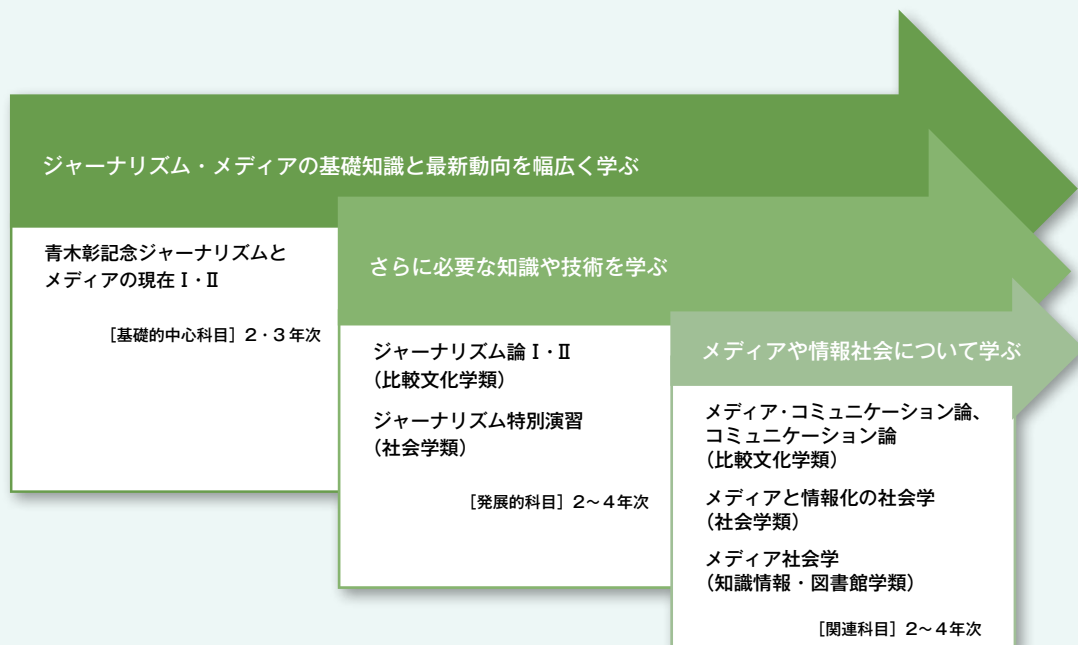
ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ(比較文化学類)
ジャーナリズム特別演習(社会学類) — より先に進みたい人は本講義の発展的科目

メディアやジャーナリズム、情報社会に関する知識の習得

メディア・コミュニケーション論、コミュニケーション論(比較文化学類)
情報文化概論Ⅰ・Ⅱ(比較文化学類)
メディアと情報化の社会学(社会学類)
メディア社会学(知識情報・図書館学類) — 更に学術的に学びたい人は本講義に関連する科目

◆ 科目の情報提供

Twitter のアカウント @aoki_kinen



春学期 メディアの基礎理解

講義日時		講義タイトル	担当者	所属	出身学類/研究科
4/16	メディア俯瞰	① インTRODククション～講義の紹介	亀谷 賢	magnet-inc 代表取締役	国際関係学類
4/23		② メディア=ジャーナリズムの場として	原田 亮介	日本経済新聞社 常務執行役員 グローバル事業局長	比較文化学類
4/30		③ エンタテインメントとしてのメディア	鈴木 宣幸	講談社 広報室長	比較文化学類
5/7		④ インターネットにおける コミュニケーションの進化	森川 亮	LINE株式会社 代表取締役社長	情報学類
5/14		⑤ (メディアを支える)広告会社の基本機能	杉村 行助	(株)電通 プロモーション事業局 業務推進1部長	体育研究科 (体育専門学群)
5/21	ジャーナリズム力	① 新聞の視点1(事件報道と人権)	菊池 功	朝日新聞社 ゼネラルマネージャー補佐	人文学類
5/28		② 新聞の視点2(政治部の視点)	乾 正人	産経新聞社 編集長 兼 論説委員	比較文化学類
6/4		③ テレビニュースの特徴1 (報道情報番組の視点)	松村 勝康	日本放送協会 報道局 政経・国際番組部 チーフ・プロデューサー	国際関係学類
6/11		④ テレビニュースの特徴2 (ニュース番組の視点)	谷川 秀夫	フジテレビジョン 報道局報道センター FNN推進部長	比較文化学類
6/18		⑤ 雑誌ジャーナリズムの力	近藤 主税	新潮社 著作権管理室	比較文化学類
6/25	メディア諸問題	① メディア報道を検証する	日下部 聡	毎日新聞大阪本社社会部記者	国際関係学類
7/2		② メディアとジェンダー、ダイバーシティ	室田 康子	朝日学生新聞社 常務取締役	経営・政策科学研究科
7/9		③ 科学ジャーナリズムの視点	東嶋 和子	科学ジャーナリスト	比較文化学類
7/16		④ メディアコンプライアンス	笹原 秀夫	関西テレビ CSR推進局 視聴者情報部部长 コンプライアンス担当	芸術専門学群
7/30		⑤ 司馬遼太郎が筑波大生に伝えたかったこと	高木 宏治	三井住友信託銀行	社会科学研究科

筑波大学名誉教授 故 青木彰氏について



1926年東京生まれ。1949年東京大学文学部教育学科卒業後、産経新聞東京本社に入社。社会部を中心に活躍し、社会部長時代の1963年には〈小暴力追放キャンペーン〉で産経初の新聞協会賞を受賞する。以後、論説委員、編集局長、取締役、フジ新聞社代表取締役を歴任して、1978年退社。筑波大学現代語・現代文化学系教授となり、以後現場体験を踏まえた研究活動に入る。1990年筑波大学を定年退官後、朝日新聞紙面評議会委員、日本放送協会経営委員、東京情報大学経営情報学部長、司馬遼太郎記念財団常務理事、東京新聞客員などを務め、広く「マスコミ界の重鎮」として活躍する。2003年没。

作家 故 司馬遼太郎氏が、著書「街道をゆく・三浦半島記」の中で、青木氏の人的魅力について「お互いに若いころ、同じ新聞社にいた。この人が社会部デスクのころ、事件がおこると、事件そのものをこの人の大きな体と神経で浸しこむように覆い、音楽のようにさまざまな音色を出させるという、余人の真似がたい指揮をした。」と述べている。

秋 期 | メディアリテラシーを磨く

講義日時		講義コンセプト	担当者	所属	出身学類 / 研究科
10 / 1	伝える技術	① インタロダクション～講義の紹介	亀谷 賢	magnet-inc 代表取締役	国際関係学類
10 / 8		② 言葉で伝える	石部 典子	フリーアナウンサー	比較文化学類
10 / 15		③ 映像＝写真で伝える	松尾 伸弥	フリーライター	人間学類
10 / 22		④ 企画で伝える	平山 康弘	博報堂DYメディアパートナーズ 統合CDCクリエイティブ部	比較文化学類
10 / 29		⑤ プレゼンで伝える	松田 真一	野村総合研究所 コンサルティング事業本部 上席コンサルタント	国際関係学類
11 / 12	発信力	① メディアをつくる	栗飯原理咲	アイランド株式会社 代表取締役	社会学類
11 / 19		② 企業からの発信力	大洞 和彦	トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部 グローバル企画室 環境・社会活動グループ長	社会学類
12 / 3		③ 起業する。メディアになる。	並河 研	株式会社OFC 代表取締役	比較文化学類
12 / 10		④ コンテンツに係る諸権利	加藤 浩輔	フジテレビジョン 総合メディア開発コンテンツ 事業局統括担当局長	人間学類
12 / 17		⑤ シリコンバレーの活力	松山 直樹	朝日新聞社 デジタル営業センター サブマネージャー	比較文化学類
12 / 24	メディアの展望	① クロスメディア考1 放送と通信の連携	塚本 幹夫	フジテレビジョン総合開発局 IT戦略担当局長	社会学類
1 / 7		② クロスメディア考2 紙媒体とWEB	麓 幸子	日経BP社生活情報グループ 統括補佐 日経BPヒット総合研究所所長	人文学類
1 / 14		③ クロスメディア考3 放送とSNS	鈴木 宏友	TBSテレビ 報道局デジタル 編集部長	社会学類
1 / 21		④ クロスメディア考4 広告コミュニケーションの進化	三神 正樹	博報堂 執行役員 エンゲージメントビジネス ユニット長	情報学類
1 / 28		⑤ 座談会：次世代メディアを展望する	塚本 幹夫 / 亀谷 賢		

●春学期

本学出身のジャーナリストおよびメディア関係者を講師として招き、毎回、異なった講師からの複眼的な視線によるオムニバス方式で、現在のメディアに関する理解を深める。Ⅰでは、広く“メディア”と称される機能とツールに関して多面性を理解し、その上で、特に“ジャーナリズム”の役割に関して理解を深める。また、多メディア化の中で変化を求められている現代の“マスメディア”の課題を検証していく。「青木彰記念・ジャーナリズムとメディアの現在Ⅱ」と、相互に関連した内容なので、できればそれらとあわせて受講することが望ましい。

●秋学期

本学出身のジャーナリストおよびメディア関係者を講師として招き、毎回、異なった講師からの複眼的な視線によるオムニバス方式で、現在のメディアに関する理解を深める。Ⅱでは、現代社会の中で必須の能力と言われる“メディアリテラシー”を磨くことに主眼を置き、“伝える能力”や“発信する能力”を高める。また、従来のマスメディアとWEBメディアやSNSなどのメディアが相互にその利点を活用し、成果を上げている事例を考察し、次世代のメディアの在り方を展望する。「青木彰記念・ジャーナリズムとメディアの現在Ⅰ」と、相互に関連した内容なので、できればそれらとあわせて受講することが望ましい。